

# 再建完了目前

世界で最も信頼性の高い、プロジェクト・カンパニーとしての地位の確立へ向けて



第76期 事業報告書  
2003年4月1日～2004年3月31日





## 関 誠夫（せき のぶお）

### 略歴

1970年4月 入社

1987年5月～94年5月

米国千代田インターナショナルコーポレーション出向

1994年5月 ファインインダストリーズ プロジェクト部長

1997年6月 取締役 SIプロジェクト本部副本部長

1998年6月 常務取締役 企画管理部門 副部門長

2000年8月 専務取締役 事業統括

2001年4月 取締役社長

## 世界で最も信頼性の高い プロジェクト・カンパニーとしての地位

社長に就任して丸3年がたち、累損一掃という必達目標の達成を目前にする所までまいりました。株主の皆様のご期待にこたえるべく、なお一層の努力を続けてまいります。

取締役社長 関 誠夫

### ついに再建完了目前となりましたね。

新再建計画を確実かつ、一日でも早く達成すべく、同時に「プロジェクト・スーパーX(PSX)」と名付けた全社運動を2001年4月から展開、日々業務の改善を進めてきました。一つ一つ継続的に改善目標をクリアしながら、3期連続の「受注拡大」と「増収増益」という成果を生んでまいりました。そして今や2006年3月期累損解消を目指した「新再建計画」完了の一年前倒しの達成が確実となりました。

このチャレンジングな全社運動プロジェクト、PSXを発表した2001年4月、社長就任当手を振り返っていかがですか。

当手を振り返ると、まず新再建計画に基づく財務リストラを2001年3月に終え再建を着実に実行していく中で、絶対に失敗は許されない厳しい状況でした。

しかしながら、株主の皆様、ご支援先、従業員の期待に応えるために、とにかくがんばらなくては、という一途な気持ちがありました。それに加えて千代田は技術力と業界におけるプレゼンスがすごい。再建したら絶対に将来は明るく、また、今後も「技術立国」日本が向かう方向に少しでも貢献していきたい、貢献していくんだ、という内に秘めた強い使命感、そしてなによりも、当社のPSX目標であるエクセレントカンパニーに生まれ変わるんだ、という強い思いがありました。

# の確立へ。

## 再建計画を完了する今年度の位置づけについて教えてください。

当社単体で3.5億円残っている累積を中間期で一掃、期末には9期ぶりの復配を実行する予定です。また、会社が中長期的に自信を持って経営できるような企業体質への完全な転換に向け、経営重点目標で自ら設定した課題の仕上げを行うとともに、中長期的な発展を目指して次期経営計画の策定に着手いたします。

## まず何から取り組みますか。

まずはマネジメントチームの合宿でしょうか(笑)。1998年以降途絶えていた合宿を今年やろうと思っています。このときを待ってましたとばかりに今まで自分の手帳に温めてきたたくさんのアイデアやコンセプト等を提示し、議論を重ね今後の方向性についてきっちり固めたいと思っています。

## 次期経営計画に向けて暖めているコンセプトとは。

社長就任時から事あるたびに申し上げておりますが、一言でいうとエクセレントカンパニーになるということです。世界で最も信頼性の高いプロジェクト・カンパニーとしての地位を確立し、さらに発展していくということです。

## もう少し具体的に教えてください。

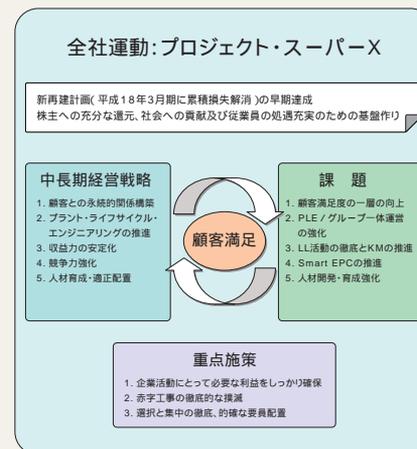
はい。石油・石油化学、ファイン・インダストリー、エネルギー環境保全分野等、数ある千代田のビジネス領域の中で今最も力を入れている天然ガス分野を例にとって説明いたします。

今後千代田は、エクセレントカンパニーへ向けて、EPC(設計・調達・建設)からPLE(プラント・ライフサイクル・エンジニアリング)へ、すなわち顧客のパートナーとして顧客のアセット・マネジメントを展開できるポジションへと進化していく(ビジネスイノベーション)。また、LNG(液化天然ガス)プラントがより複雑化、大型化する中で壁となっている技術問題を取り除き、プロ集団とし

## 連結業績

(単位: 億円)

科目	第76期	第77期予想
受注高	2,906	2,300
売上高	2,068	2,200
営業利益	58	71
経常利益	63	71
当期純利益	66	73

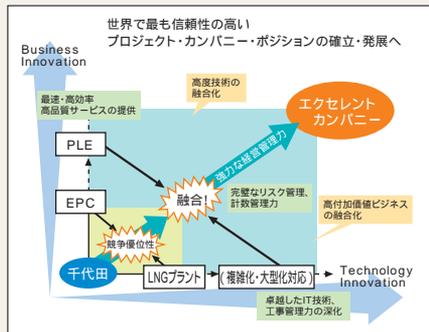


注) LL: Lessons & Learnの略。

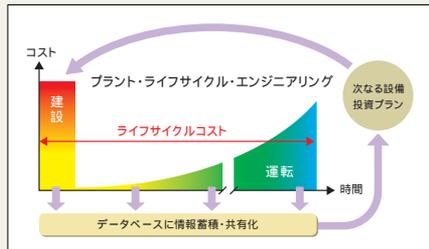
業務を通じて得た経験、知識、ノウハウを組織として蓄積するナレッジ・マネジメント(KM)活動。

Smart EPC: Engineering(設計)・Procurement(調達)・Construction(建設)の主要な業務内容について、ITを駆使して高い効率、かつ高い精度の仕事を実現するための一連の業務改善施策の総称。

## 中長期的発展に向けた経営課題の位置付け



## 成長戦略：PLEのイメージ



での技術力を高めていく(テクノロジーイノベーション)

この二つの進化が融合した領域でビジネス展開を図ることにより高度技術・高付加価値ビジネスの中で圧倒的な競争優位性を構築し、顧客に最速・高効率・高品質サービスを提供できるようになります。

これらに加えて完璧なリスク管理と計数管理の徹底により、強力な経営管理能力を持つことで、エクセレントカンパニーとして、世界で最も信頼性の高いプロジェクト・カンパニーの地位を確立していくということです。

壮大な計画ですね。天然ガスを例にご説明されましたが、それ以外の分野についてはどのように考えればよろしいのですか。

テクノロジーイノベーションの例を説明いたしました。千代田グループが取り扱うプロセスに関係する高付加価値プラントにおいては、いつの時代でも、どんな分野でもプロジェクトで貢献できるシステムと遂行力/体制を確立し、常に競争優位性を発揮していくということです。

そのためのキーとなるのが昨年来打ち出しているPLEなのですか。

はい。その通りです。PLEの推進により顧客と持続的なパートナーとでもいふべき信頼関係を構築し、変化する顧客のニーズに合わせて千代田グループも日々進化してまいります。

今期の収益基盤となるマーケット状況について教えて下さい。

海外については、米国、欧州、インド、中国の強力な需要拡大に支えられ、予想を上回る勢いでエネルギーやガス化学へ、いわゆるガスシフトが進んでいます。続々と出てくるLNGプラントの超大型化の動きに加えて、LNG向けにガスを探る際に出てくる安い随伴ガスを利用したエチレンプラント等の大型化学プラントの計画も、今後、目白押しとなっており、当面は明るいといえ

ます。景気が底を打った国内も、顧客の設備投資は意欲的で、また海外展開等の動きもあり、引き続き堅調といえます。

### ではまとめとして2005年3月期の抱負について教えてください。

2005年3月期決算は、継続して増収増益を見込み、9期ぶりの復配実行を予定しております。そういう状況の中で、次のステップに向け次期経営計画を策定・始動していきます。目指す姿は、繰り返しとなりますが、世界で最も信頼性の高いプロジェクト・カンパニーとしての地位を確立することです。同時にビジネスのやり方としては、いつの時代でも、どんな分野でもプロジェクトで貢献できるシステムと遂行力/体制を備えたエクセレントカンパニーになっていきたいと思っております。

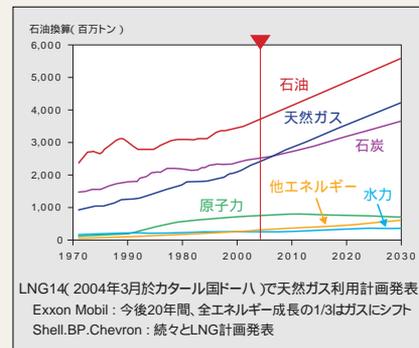
また、企業のCSR(社会的責任)が叫ばれる中で、千代田は、いろいろとコーポレートガバナンス/コンプライアンスを進めてきました。そこで感じることは、最後はやはり人であるということです。人も会社も高い人格を目指していくという姿勢で、引き続き取り組んでいきます。

### 最後に、株主の皆様へメッセージはありますか。

最後に株主の皆様へ申し上げたいことは、管理のグリップが効いてきたということ。そして何より従業員の仕事のやり方に対する問題意識、姿勢が変わってきたということです。問題意識を高く、もう一步突っ込んで納得のいく仕事をする。この従業員の意識と仕事に対する姿勢が、最後には会社のオペレーションを安定、かつ、信頼性の高いものにしていき、エクセレントカンパニーの源泉になると信じております。そういう意識が当社の社員にしっかり身につけてきたということを本当にひしひしと感じております。こういうところを大事にしながら、次なる目標に向かってしっかり進んでまいりたいと思っております。

本日はありがとうございました。

### 世界の一次エネルギー総供給の推移と予測



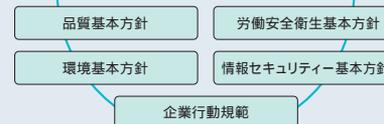
出典: IEA (International Energy Agency)

### 経営理念

総合エンジニアリング企業として、英知を集結し研鑽された技術を駆使して、事業の発展を図り社会の進歩に貢献。

### 経営方針

国内外顧客との確固とした信頼関係の構築に専心。  
質の高いサービスを提供。  
国内外グループ企業の機能を横断的に活用する  
グループ・オペレーションを展開。



## 営業の概要

当期の連結受注工事高は、国内719億79百万円(前期比4.9%増)、海外2,186億78百万円(同21.2%増) 合計2,906億58百万円(同16.7%増)となり、目標受注額であった2,800億円を上回ることができました。

一方、連結完成工事高は、国内633億53百万円(前期比23.7%減)、海外1,434億62百万円(同72.2%増) 合計2,068億16百万円(同24.3%増)となり、目標額の2,000億円を達成できませんでした。

業績面では、完成工事総利益は、完成工事高の増加及び受注採算確保を目的としたリスクマネジメント手法の定着によって、141億6百万円(同35.1%増)となり、加えて、販売費及び一般管理費の更なる削減に努めた結果、営業利益は58億81百万円(同279.8%増)と大幅に増加しました。

経常利益についても、有利子負債の圧縮による金利負担の減少等により、目標額の50億円を上回る63億48百万円(同165.2%増)となり、当期純利益も66億46百万円(同232.5%増)を計上し、当期目標額の41億円を達成することができました。

## 引き続き好調な受注



### 第76期の主な受注工事

海外部門	国内部門
100億円以上 LNGプラント / 原油輸出設備(ロシア) ガス開発プロジェクト【増額分】(カタール)	10億円以上 LPG国家備蓄プロジェクト 水素化脱硫装置(新日本石油精製(株)) ガソリン硫黄低減化工事(昭和四日市石油(株)) ガソリン硫黄低減化工事(西部石油(株)) 薬理研究棟(三菱ウェルファーマ(株))
10億円以上 塩化ビニリデン樹脂プラント(中国 / 呉羽化学工業(株)) アクリル樹脂シートプラント(中国 / 三菱レイヨン(株)) LNGプラント基本設計(カタール)	

### 第76期の主な完成工事

海外部門	国内部門
100億円以上 LNGプラント【出来高部分】(カタール) LNGプラント / 原油輸出設備【出来高部分】(ロシア) LNGプラント【出来高部分】(オマーン) メタノールプラント【出来高部分】(サウジアラビア)	10億円以上 排煙脱硫設備(株)神戸製鋼所 医薬品プラント(中外製薬(株)) 常圧蒸留装置増強 / 原油成分分離塔(太陽石油(株))

## 受注・完工の状況

### 石油分野

国内石油業界の再編や製油所統廃合による合理化、原子力発電所の運転休止に伴う重油等の販売増に加え、環境問題への意識の高まりから、ガソリン・灯油・軽油の硫黄除去設備等への投資が積極的に行われました。当期の受注工事高は388億90百万円(前期比299.6%増)となりましたが、完成工事高については、前期に石油分野の海外受注が少なかったため257億27百万円(同25.4%減)に留まりました。



建設中の昭和四日市石油(株)向けガソリン硫黄低減化工事

### 化学分野

汎用化学品分野においては、原油から天然ガスへ原料のシフト化が進むエチレン増産に伴い、化学会社のプロピレン不足への対応の動きがみられました。石油精製会社では、付加価値商品の追求等、新たな展開が図られました。医薬品分



中国で行われたアクリル樹脂シートプラントの起工式

野では、業事法改正、相次ぐ合併、外資系製薬会社による買収等の外部環境の変化に対応するため、国内製薬会社はエンジニアリング部門のアウトソーシングを進める動きが継続しました。海外では、中東地域において数多くの投資計画が立てられ、中長期的に有望な市場である中国でも、自動車、家電、食品等の分野への外国企業の進出が活発化していることから、その部品や原材料等を供給するために国内化学会社による対中国投資も増加しました。

当期の受注工事高は218億55百万円(前期比55.1%減)となり、完成工事高は、過去的好調な受注の影響を受けたため542億29百万円(同51.4%増)となりました。



三菱ウェルファーム(株)横浜薬理研究棟の地鎮祭



三菱レイヨン(株)  
プロジェクト予定地

呉羽化学工業(株)  
プロジェクト予定地

中国の江蘇省南通市で三菱レイヨン(株)の中国現地法人よりアクリル樹脂シートプラントを、呉羽化学工業(株)の中国合弁会社より塩化ビニリデン樹脂プラントを連続受注

## 電力・ガス分野

国内では、民生用の給湯需要が伸びたこと、工業用エネルギーの天然ガスへの燃料転換が進んだことを要因として、ガス会社による都市ガス販売量は増加しており、民生用・工業用両分野での天然ガス利用拡大傾向が顕著となりました。

海外では、米国及びカナダの天然ガス生産が漸減傾向にあり、その対策として米国ではLNGを含めたエネルギーの海外調達を積極化する方針を打ち出し、市場の自由化によりガス供給事業への新規参入が活発化している欧州諸国でもLNG輸入量は引き続き増加傾向が続きました。

また、インドはカタールと750万トン/年のLNG供給契約を結び、中国もガス購入契約をインドネシアやオーストラリアと



ロシアで遂行中のサハリンLNGプラント完成予想図

締結する等、新たなLNG輸入国による市場参入の動きがありました。こうした情勢を受けて、中東地域において、ガス処理設備、LNG・LPG

設備の増設計画が引き続き堅調に推移しました。

当期の受注工事高は2,010億40百万円(前期比36.7%増)となり、完成工事高は、大型案件の受注もあり934億34百万円(同94.8%増)となりました。



カタールLNGプラント(Train3)

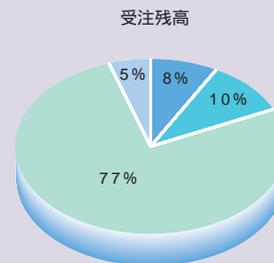
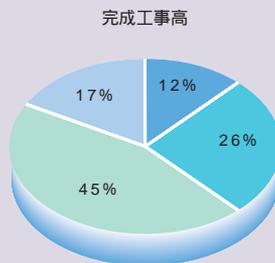
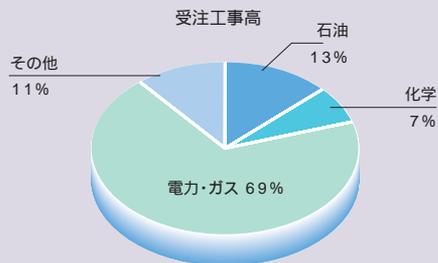
## その他の分野

電子材料・高機能フィルム分野等において、設計業務を中心に受注しました。当期の受注工事高は288億72百万円(前期比33.9%減)となり、一方、完成工事高は、前期に受注した環境関連案件の完工に伴い334億24百万円(同30.5%減)となりました。

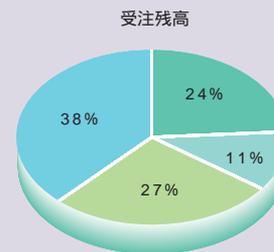
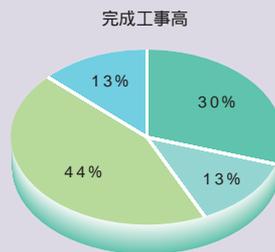
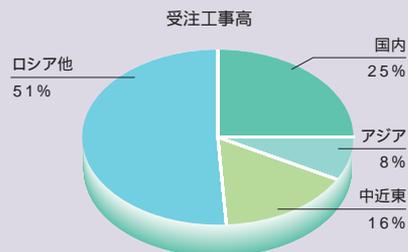


(株)神戸製鋼所の排煙脱硫設備を含む発電所全景

## 当期の分野別割合



## 当期の地域別割合



## 業績の推移



# 連結決算レポート

## 流動資産

前期末と比べ236億円増加し、1,205億円となりました。これは、未成工事支出金が21億円減少した一方で、現金預金が増加し、ジョイントベンチャー持分資産が197億円それぞれ増加したことによりです。

## 固定資産

前期末と比べ10億円減少し、223億円となりました。これは主に、長期滞留債権の回収に伴う投資等の減少12億円等によりです。

## 流動負債

前期末と比べ154億円増加し、1,048億円となりました。これは、短期借入金が増加した一方で、支払手形及び工事未払金が63億円、未成工事受入金が118億円、その他流動負債が52億円それぞれ増加したことによりです。

株主資本比率と負債純資産倍率( DER )



## 資本の部

当期純利益66億円を計上したことから、累積損失が解消され、利益剰余金が58億円となりました。この結果、資本合計は227億円、株主資本比率は15.9%となり、前期末と比べそれぞれ161億円の増加、2.0ポイントの改善となりました。

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第75期	第76期
	自 2002年4月 1日 至 2003年3月31日	自 2003年4月 1日 至 2004年3月31日
資産の部		
<b>流動資産</b>	<b>96,929</b>	<b>120,556</b>
現金預金	36,112	41,613
受取手形及び完成工事未収入金	25,374	24,612
未成工事支出金	21,105	18,918
ジョイントベンチャー持分資産	8,672	28,413
その他流動資産	6,293	7,430
貸倒引当金	628	431
<b>固定資産</b>	<b>23,367</b>	<b>22,303</b>
有形固定資産	7,067	6,922
無形固定資産	2,317	2,607
投資等	13,983	12,773
<b>資産合計</b>	<b>120,297</b>	<b>142,859</b>
負債の部		
<b>流動負債</b>	<b>89,404</b>	<b>104,836</b>
支払手形及び工事未払金	46,511	52,888
未成工事受入金	25,172	37,061
短期借入金	8,202	101
その他流動負債	9,518	14,785
<b>固定負債</b>	<b>13,724</b>	<b>14,912</b>
長期借入金	10,422	10,316
その他固定負債	3,302	4,595
<b>負債合計</b>	<b>103,129</b>	<b>119,748</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>499</b>	<b>344</b>
資本の部		
<b>資本金</b>	<b>12,027</b>	<b>12,027</b>
資本剰余金(資本準備金)	5,818	5,818
利益剰余金(欠損金)	496	5,800
自己株式ほか	680	880
<b>資本合計</b>	<b>16,669</b>	<b>22,766</b>
<b>負債・少数株主持分及び資本合計</b>	<b>120,297</b>	<b>142,859</b>

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期	第76期
	自2002年4月1日 至2003年3月31日	自2003年4月1日 至2004年3月31日
完成工事高	166,367	206,816
完成工事原価	155,924	192,709
完成工事総利益	10,443	14,106
販売費及び一般管理費	8,894	8,225
営業利益	1,548	5,881
営業外収益	1,751	1,176
営業外費用	906	710
経常利益	2,393	6,348
特別利益	1,708	1,198
特別損失	1,593	2,176
税金等調整前当期純利益	2,508	5,370
法人税、住民税及び事業税	634	667
法人税等調整額	146	1,905
少数株主利益	22	38
当期純利益	1,999	6,646

## 完成工事総利益

完成工事総利益率は6.8%と、前期の6.3%より0.5ポイントの改善となりました。

## 営業利益

営業利益率は2.8%と、前期の0.9%より1.9ポイントの改善となりました。

## 経常利益

経常利益率は3.1%と、前期の1.4%より1.7ポイントの改善となりました。

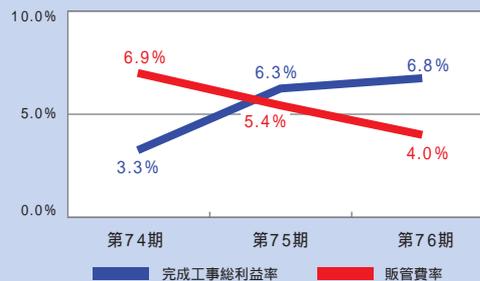
## 当期純利益

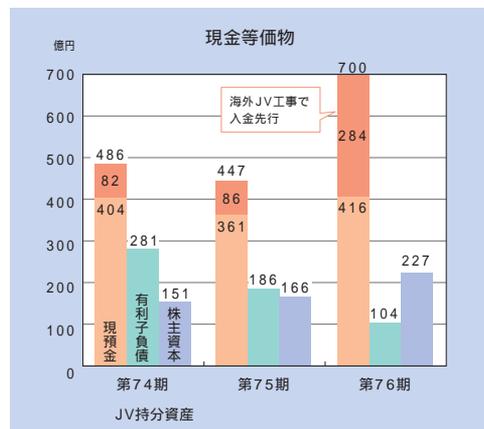
当期純利益66億円を計上した結果、株主資本当期純利益率(ROE)は33.7%(前期12.6%)、一株当たり当期純利益(EPS)は35.91円(前期10.79円)となり、前期と比べ大幅に改善しました。

株主資本当期純利益率(ROE)



完成工事総利益率と販管費率





### キャッシュ・フロー

前期に引き続き、営業活動により獲得したキャッシュ・フローを積極的に有利子負債の削減に充て、支払利息負担の軽減に努めました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科 目	第75期 自 2002年4月 1日 至 2003年3月31日	第76期 自 2003年4月 1日 至 2004年3月31日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,508	5,370
減価償却費	1,225	1,205
その他の損益	813	669
営業に関する資産の減少額	3,948	2,949
営業に関する負債の増加額( 減少額)	2,372	18,266
その他の資産・負債の増減	2,250	11,133
(小計)	6,747	15,988
利息及び配当金の受取額	1,576	665
法人税等の支払額	790	705
その他	594	367
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>6,939</b>	<b>15,580</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>873</b>	<b>1,277</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金純減少額	8,717	7,904
長期借入金純減少額	783	257
その他	42	92
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>9,544</b>	<b>8,254</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>34,940</b>	<b>40,902</b>

### 連結剰余金計算書

(単位: 百万円)

科 目	第75期 自 2002年4月 1日 至 2003年3月31日	第76期 自 2003年4月 1日 至 2004年3月31日
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	5,818	5,818
資本剰余金期末残高	<b>5,818</b>	5,818
利益剰余金の部		
利益剰余金(欠損金)期首残高	2,516	496
利益剰余金(欠損金)増減	2,019	6,297
当期純利益	1,999	6,646
その他	20	349
利益剰余金(欠損金)期末残高	<b>496</b>	<b>5,800</b>

## 単体決算レポート

### 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第75期 (2003年3月31日現在)	第76期 (2004年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	71,513	98,988
固定資産	25,879	23,301
有形固定資産	3,305	3,681
無形固定資産	2,257	2,556
投資等	20,315	17,063
<b>資産合計</b>	<b>97,392</b>	<b>122,290</b>
負債の部		
流動負債	71,575	91,166
固定負債	12,623	13,767
<b>負債合計</b>	<b>84,198</b>	<b>104,933</b>
資本の部		
資本金	12,027	12,027
資本剰余金(資本準備金)	5,818	5,818
利益剰余金(欠損金)	4,604	349
自己株式	48	140
<b>資本合計</b>	<b>13,193</b>	<b>17,356</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>97,392</b>	<b>122,290</b>

### 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期 自2002年4月1日 至2003年3月31日	第76期 自2003年4月1日 至2004年3月31日
<b>完成工事高</b>	<b>130,470</b>	<b>169,787</b>
完成工事原価	123,479	160,266
<b>完成工事総利益</b>	<b>6,990</b>	<b>9,521</b>
販売費及び一般管理費	6,372	5,831
<b>営業利益</b>	<b>618</b>	<b>3,689</b>
営業外収益	2,619	953
営業外費用	936	632
<b>経常利益</b>	<b>2,301</b>	<b>4,010</b>
特別利益	1,751	1,085
特別損失	1,645	2,640
<b>税引前当期純利益</b>	<b>2,407</b>	<b>2,455</b>
法人税、住民税及び事業税	192	23
法人税等調整額	84	1,776
<b>当期純利益</b>	<b>2,684</b>	<b>4,255</b>

### キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期 自2002年4月1日 至2003年3月31日	第76期 自2003年4月1日 至2004年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,407	17,764
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,169	561
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,351	8,596
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>23,703</b>	<b>32,268</b>

### 損失処理

(単位:百万円)

科 目	第75期 (2003年6月25日株主総会決議)	第76期 (2004年6月25日株主総会決議)
前期末未処理損失	7,289	4,604
当期純利益	2,684	4,255
当期末未処理損失	4,604	349
<b>次期繰越損失</b>	<b>4,604</b>	<b>349</b>

## 連結グループの状況

### LCE(ロー・コスト・エンジニアリング・センター)の展開

当社グループでは、優良なエンジニアリングサービスを国際競争力のある価格で提供するLCE(ロー・コスト・エンジニアリング・センター)によって、世界規模でトータルサービスを提供できる体制を整えております。フィリピン(C&E Corporation)及びインド(L&T Chiyoda Limited)に拠点があるLCEでは、IT化及び3-D CAD 統合設計によって品質確保を実現し、技術力の優位性とコスト競争力の強化を図っております。

C&E Corporationでは、プロセス、機械、電計、配管、土木、建築、ITエンジニアを含め380名を超える要員により、LNG プロジェクトを中心とした詳細設計の遂行の他、横浜での初期設計への参画や、現場へのエンジニア派遣が実施されています。

一方、L&T Chiyoda Limitedは、契約社員を含め総勢420名を超える体制で、プロセスから土木・建築までの全分野の設計をカバーし、2004年3月期は主として化学プロジェクトの詳細設計業務を遂行しました。

これらLCEに対しては、当社の強力な指導及び継続的な教育を実施することで、更なる技術力の向上を図っております。

また、ビデオ会議やネットミーティングの最大限の活用による当社とLCEとの一体運営を実現しております。



### C&E Corporation

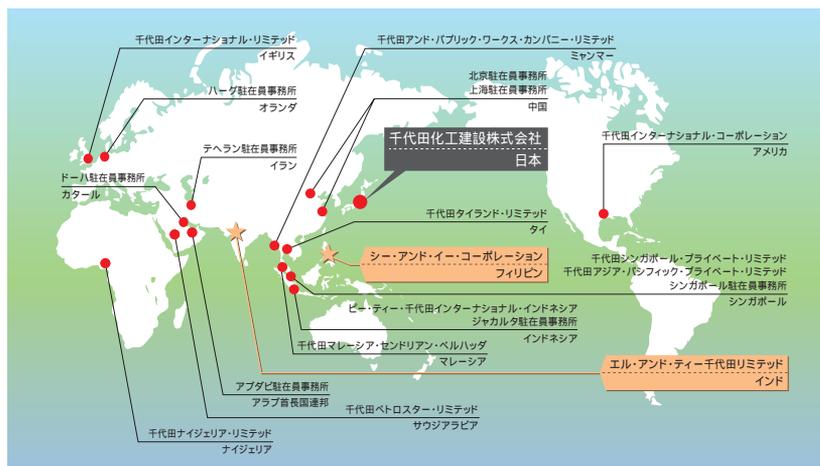
設計中心のLCEから、プロジェクト遂行を含めた会社全体のLCEに変わりつつあります。

### L&T Chiyoda Limited

当社は2003年7月に出资比例を50%へ高め、従来より密接な業務遂行体制を築いております。



## グローバル・ネットワーク



## トピックス

## LNG14会議・展示会に参加《カタール》

パース(オーストラリア) ソウル(韓国)に続く、3年に一度のビッグイベントであるLNG14会議及び併設展示会が、2004年3月にカタールのドーハで開催されました。

世界36カ国から2,500名のLNG関係者(出展企業は152社)が一堂に会するなか、当社はLED回転ディスプレイを使った映像



LNG14会議の様相

等を展示し、LNG関係者のトップが集まる貴重なチャンスを生かした様々なミーティングをハードスケジュールの中で行いました。

開会式典では、当社の最重要マーケットであるホスト国のアルタニ首相が「ガスセクターの発展と天然資源の最適化利用がわが国の最重要課題である」と述べ、アティーヤ・エネルギー・工業大臣が「現在LNG年産1800万トンを2010年には6,000万トン以上に増やし、これに300億ドルの投資をする」こと、す



アティーヤ・エネルギー・工業大臣を出迎える関社長

等を出展し、LNG関係者のトップが集まる貴重なチャンスを生かした様々なミーティングをハードスケジュールの中で行いました。

なわち、世界最大のLNG輸出国になることを表明しました。

会期中にはラスラファンで、当社JVが完工させたカタールLNGプラント

(Train 3)の完成式典が首長臨席のもと盛大に執り行われ、翌日の地元新聞にも大きくとりあげられました。世界のLNG関係者がカタールに集まるなかで、注目を浴びる完成式典が執り行



われたことは当社にとって大変名譽なことでもあります。次回のLNG15は2007年にバルセロナ(スペイン)で開催される予定です。



当社の展示会場



当社のLNGプラントの建設実績を示す展示会場の壁面。大型化に挑戦し、ついに年産780万トン/ト레인規模に。

## トピックス

### イランで肥料プラント連続受注

当社、東洋エンジニアリング(株)とイランのエンジニアリング会社であるPIDEC社とのコンソーシアムは、イラン国営石油化学会社傘下のPIDMCO社より、同社がバンドル・アサルイエ地区にて計画を進める同社2基目となる、アンモニア(日産2,050トン)と尿素(日産3,250トン)を生産する肥料プラントの設計及び機器資材一式の調達業務を随意契約にて受注し、本年2月にテヘランにて契約調印式が行われました



た(当社は尿素プラントを担当)

本プロジェクトは、現在、隣接地に建設中の1基目の肥料プラント建設での3社コンソーシアムによるスムーズなプロジェクト遂行に対する客先の高い信頼を得たことにより、同規模の設備を入札無しで受注するに至ったものであり、サウスパースガス田より生産される天然ガスを原料に世界最大級の肥料プラントを建設するものです。



調印式の模様(当社からは小林専務が出席)

### 持続可能な発展へ(サハリン2プロジェクトの事前環境調査)

ロシアで遂行中の本プロジェクトは、現在キャンプの仮設工事や荷揚桟橋に係る土木工事を中心とした建設工事の初期段階であります。一方、冬季の寒さが厳しいサハリンでは自然が数多く残っています。島の南部にあるプラント建設現場の敷地内にはサケやマスが産卵のため遡上する川が流れ、また北部の開発現場周辺にはアザラシ、アシカ、セイウチ、コクジラ、ペンギンなど稀少動物が多く生息しているため、地域環境へ十分に配慮をしたプロジェクトの遂行を進めていきます。



環境調査(建設現場近くを流れる川)



稀少植物の環境調査

### オマーン国からCFW社が表彰状受領



Shaikh Abdulla Bin ali Al Qatabi, the President of Majles A' Shuraから記念の盾を受領するCFW社 中野社長

表彰状

LNGプラント第3系列を建設中のChiyoda Foster-Wheeler and Company LLC社(CFW)が、オマーン人の雇用促進に貢献した功績により、民間企業では唯一、建設部門のトップ企業として、本年2月にマスカット近郊にて政府関係者の列席の下、労働省より表彰されました。

## CT-121欧州向けライセンス供与に調印

当社の排煙脱硫技術CT-121の欧州向けライセンス供与契約の調印式が、デンマークのBurmeister & Wain Energy A/S (BWE)とその親会社であるイタリアのSTF SpA(STF)との間

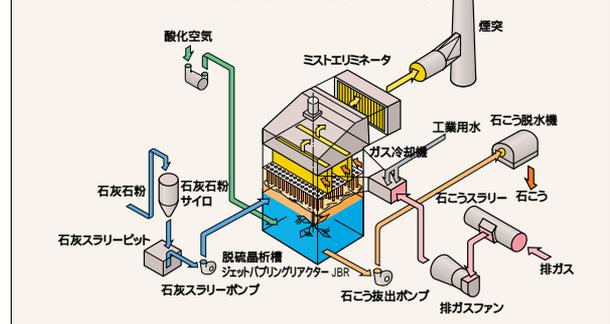


左よりErik Hoffmann-Petersen, CEO (BWE社), Agostino Vismara, Direzione Legale (STF社) 白崎常務執行役員

で、本年4月にBWEコペンハーゲン本社にて行われました。今後、厳しい環境規制が適用される欧州では、旧東欧諸国のEU加盟によるマーケットの更なる

拡大もあって、新しいパートナーとの連携が実績に繋がっていくものと期待されます。

## 千代田サラブレッド121排煙脱硫装置(CT-121)



## 水島LNG受入基地の完成へ向けて

中国電力(株)と新日本石油精製(株)との合弁会社である水島エルエヌジー(株)より一括受注したLNG受入基地で、本年3月に国内最大級(16万キロリットル)となるLNG地上貯蔵タンクの屋根浮上イベントが行われました。このタンク防液堤の内径は80m、送風機によって3時間かけて29.2m上昇すると、屋根までの高さは17階建(約51.7m)のビルに相当します。

LNG受入基地システムでは、船で運ばれてきた極低温(-162 )

のLNGを、配管を通して貯蔵タンクに送り、-162の液体のまま貯蔵します。払出方法は、LNGをポンプで気化器に送り、加温のために海水をかけてガスに戻してから、配管を通して供給する方法と、液体のままローリー車で出荷する方法の二つがあります。



LNG設備完成予想図



浮上前のLNGタンク内部

## LNGタンクの屋根浮上

シーリング(難燃性)を外槽屋根周囲に取り付け、密閉されたタンクへ大型送風機によりエアを送り込むと、内部の圧力が上昇し屋根が浮き上がります。



このプロジェクトは当社の実績が評価され、国内初となる受入基地のEPC(設計・調達・建設)契約となりましたが、2006年3月の引き渡しを目指し、安全に遂行してまいります。

## 会社の概況

### 会社概要

設立	昭和23年1月20日
資本金	12,027,676,450円
従業員	単体従業員数 1,092名、連結従業員数 2,439名
主要な事業内容	石油、ガス、石油化学、一般化学、原子力、石炭、電力、製鉄、造水、食品、生化学、医薬品、医療、運輸、流通等の産業用、民生用設備並びに公害防止、環境改善及び災害防止用設備等についての計画、設計、製作、建設、試運転
主要な営業所及び事務所	本店 / 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12-1 子安リサーチパーク / 横浜市神奈川区守屋町三丁目13 (旧子安オフィスは旧研究開発センターの移転受入により、7月から子安リサーチパークとなります)
海外駐在員事務所	ハーグ、ドーハ、アブダビ、テヘラン、シンガポール、ジャカルタ、北京、上海

### 主要な連結子会社

千代田計装株式会社	横浜市神奈川区
千代田工商株式会社	横浜市鶴見区
アローヘッド・インターナショナル株式会社	東京都港区
千代田テクノエース株式会社	横浜市神奈川区
ユーテック・コンサルティング株式会社	横浜市鶴見区
アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社	東京都港区
千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社	横浜市神奈川区
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド	シンガポール
千代田インターナショナル・コーポレーション	アメリカ合衆国
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッド	マレーシア
千代田インターナショナル・リミテッド	イギリス
千代田ナイジェリア・リミテッド	ナイジェリア
千代田タイランド・リミテッド	タイ
ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア	インドネシア
千代田アジア・パンフィック・プライベート・リミテッド	シンガポール
シー・アンド・イー・コーポレーション	フィリピン
千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド	ミャンマー

### 主要な関連会社

株式会社アローメイツ	横浜市中区
ITエンジニアリング株式会社	横浜市神奈川区
千代田ベトロスター・リミテッド	サウジアラビア
エル・アンド・ティー・千代田リミテッド	インド

### 役員 (平成16年6月25日現在)

*取締役社長	関 誠 夫
*取締役副社長	山 村 彰
*取締役副社長	成 富 尚 武
*専務取締役	柴 田 博 至
*専務取締役	小 林 博 博
常務取締役	源 淳 郎
常務取締役	ジュリアン E. バイラント
取締役	久 保 田 隆
取締役	アルバート J. スタンレー
常勤監査役	川 名 通 彦
常勤監査役	亀 井 信 寧
監査役	藤 岡 琿 晃
監査役	今 出 川 幸 寛

(注)1.\*印は代表取締役を示します。

2.アルバート J. スタンレー氏を除く取締役は、執行役員を兼務しております。

常務執行役員	白 崎 善 宏
常務執行役員	門 山 明
常務執行役員	中 谷 秀 雄
執行役員	香 田 圓
執行役員	坂 口 順 一
執行役員	山 本 孝 士
執行役員	長 田 文 雄
執行役員	中 島 純 夫
執行役員	横 井 悟

### 有資格者数一覧

資格名称	資格名称
公的資格	
土木施工管理技士 1級 ..... 51	建築士 1級 ..... 25
土木施工管理技士 2級 ..... 1	建築士 2級 ..... 5
建築施工管理技士 1級 ..... 9	技術士 建設部門 ..... 2
電気工事施工管理技士 1級 ...15	技術士 機械部門 ..... 9
電気工事施工管理技士 2級 ..... 4	技術士 衛生工学部門 ..... 5
管工事施工管理技士 1級 ..... 61	電気工事士 第1種 ..... 2
管工事施工管理技士 2級 ..... 8	電気工事士 ..... 4
監理技術者 ..... 76	電気主任技術者 第3種 ..... 11
国際資格	
Professional Engineer 機械工学 ..... 2	
Professional Engineer 化学工学 ..... 7	
Professional Engineer 土木工学 ..... 2	
PMプロフェッショナル ..... 63	

合計 362名

## 株式の状況

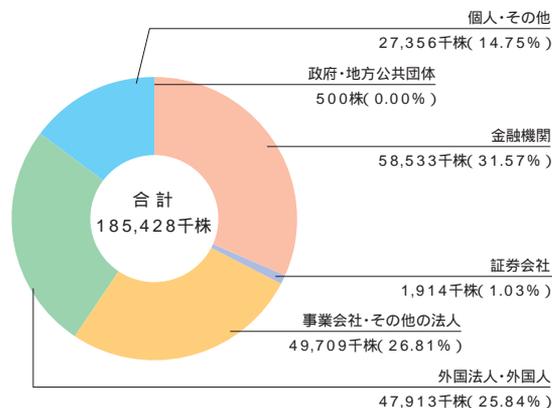
- 1 会社が発行する株式の総数 ..... 650,000,000株  
 株式の種類 普通株式 ..... 570,000,000株  
 優先株式 ..... 80,000,000株
- 2 発行済株式総数 普通株式 ..... 185,428,529株
- 3 株主数 ..... 13,893名
- 4 新株予約権の状況

発行決議の日	行使開始日	目的となる株式の種類及び数
平成14年6月27日	平成16年7月1日	普通株式 7,820,000株

## 5 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
三菱商事株式会社	19,851	10.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	12,794	7.0
日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口	10,973	6.0
三菱信託銀行株式会社	9,034	5.0
株式会社東京三菱銀行	9,033	5.0
ジェビーモルカンチェスシャーリーエフジャスデックレンディング アカUNT	8,717	4.8
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	7,512	4.1
ケイビーアール・エムシーインベストメント株式会社	5,994	3.3
株式会社荏原製作所	3,687	2.0
ザ チェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	3,014	1.7

## 所有株数別分布状況



## 株式データ



## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会については3月31日。そのほか必要がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ公告のうえ設定いたします。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話番号 0120-707-696(フリーダイヤル)
公告掲載新聞	日本経済新聞
一単元の株式の数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6366

### 【お知らせ】

住所変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、株式の相続手続依頼書など株式関係の手続き用紙のご請求は、名義書換代理人フリーダイヤル0120-707-696で承っております。

平成15年4月1日施行の改正商法により「株券失効制度」がスタートし、株券を喪失された場合の手続きが従来の公示催告・除権判決により再発行を受ける手続きより簡便となりました。詳細は名義書換代理人にご照会ください。

従来より日本経済新聞に掲載していた貸借対照表及び損益計算書の開示については、平成15年3月期より当社ホームページに掲載することとさせていただきます。

ホームページアドレスは次のとおりです。

[http://www.chiyoda-corp.com/index\\_i.html](http://www.chiyoda-corp.com/index_i.html)



千代田化工建設株式会社

本店 〒230-8601 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号  
電話 045-521-1231(代表) FAX 045-503-0200

<http://www.chiyoda-corp.com/>